

平成28年9月20日

各部局等の長 殿

高浜市長 吉岡 初浩

平成29年度（2017年度）予算編成について

第1 予算の編成にあたって

本市の市税収入は、リーマンショック以降、平成26年度まで順調に回復基調をたどってきたものの、平成27年度決算においては、法人市民税の一部国税化などにより、前年度比1億3千万円の減収となった。また、平成28年度地方交付税算定の結果、「不交付団体」となり、約2億円の一般財源が喪失した。さらに、今年度は新たな財政需要が発生し、前年度の繰越金（5億5千万円）を歳入に計上した現時点においても、なお、財政調整基金3億円の取り崩しが解消されておらず、大変厳しい財政運営を強いられている。

今後の財政見通しでは、市役所本庁舎整備事業、高浜小学校等整備事業をはじめ、公共施設の老朽化対策に係る財政負担が重くのしかかることが見込まれる。また、少子高齢化の進展に伴い、扶助費をはじめとする社会保障費の大幅な増加は避けられず、引き続き市の財政運営に大きな影響を及ぼすことが予想される。

財政調整基金については、平成28年度末現在高見込みが約15億円であり、財政調整基金を取り崩さなければ予算が編成できない状況や将来の財政負担の増大を考えると、健全財政の維持が危うくなることも予想され、最大限の危機感をもって予算編成に臨む必要がある。

新たな財源を捻出するか、事業のスクラップを前提にしなければ、新たな財政需要に対応できず、例年にも増して厳しく、苦しい予算編成になることを覚悟しなければならない。

そこで、平成29年度の予算編成方針は、「将来のために覚悟を持って臨む予算編成」とし、編成にあたっては、従来の施策を安易に継続させるのではなく、事業の根幹にまで立ち返り、真に必要な事業を見極めることとし、経常経費の削減必達目標を1億円と設定する。

職員一人ひとりが「創意」と「工夫」の確固たる意志を持ち、組織の英知を結集して特段の努力により、この厳しい難局を乗り越えることを期待する。

第2 平成29年度予算編成の基本的な考え方

「健全財政の維持」。そして、将来の世代にこの素晴らしい高浜市を引き継いでいくことは我々の使命である。そこで、将来にわたる安定した財政基盤を確立させるための第一歩として、以下、3つの基本的な考え方を掲げる。

(1) 事業の「選択と集中」

すべての事務事業について、必要性、単価、回数等をゼロベースで見直し、徹底した経費の削減を図るとともに、納税者の視点で事務事業の必要性、有効性、効率性、緊急性を検証し、既存事業の整理、統合、廃止等、「選択と集中」により、限りある財源のより効率的な活用に努めることとする。

(2) 予算編成手法の見直し

経常経費1億円を削減するためには、事業担当グループの視点に加えて、財政的な視点や経営的な視点により、真に必要な事業を見極めなければならない。そこで、事業目的や効果等の説明が十分でないものは思いきって予算計上を見送ることとする。

(3) 重点取組事項への財源配分

サマーレビューの結果を踏まえ、緊急度、優先度が高い事業を絞り込み、集中的に財源を配分する。なお、それ以外に新たな事業を始める場合は、その財源を他に求めることなく、各部局内で確保することを前提とする。

第3 重点取組事項

平成29年度の予算編成は、第6次高浜市総合計画中期基本計画の総仕上げの年であることを踏まえ、基本目標ごとの重点施策は特に設けず、各部局において、目標の達成に向けて戦略的な取組を推進することとする。なお、サマーレビューの結果を踏まえ、以下、5つの重点取組事項を掲げる。

- ・ 徴収率の向上につながる事業
- ・ 企業誘致につながる事業
- ・ 防災・減災につながる事業
- ・ 教育環境の向上につながる事業
- ・ 「生涯現役のまちづくり」につながる事業